

金賞

イクメン

トヨタ自動車株式会社 元町工場

齋藤 雄平

「切粉溜まってましたよ。自主保全で清掃してください。」私はオペレーターの方にそう言い、現場を後にしました。

当時入社8年目の私は自主保全は製造部署の仕事、私たち保全部署は専門保全をしっかりとやるのが仕事だと思っていました。多忙な仕事を終え、家に帰ると家事や育児は妻がほとんどやってくれ、少し手伝う程度でした。「自分は仕事もしているし、まあいいか」という気持ちでした。

そんな時、妻が2人目を妊娠しました。月日が経つにつれお腹は大きくなり家事をするのも大変そうでしたが、妻はいつも「大丈夫」と言ってくれました。私はその言葉に甘え、今までと変わらぬ生活をしていました。

しかし、妻が入院することになり家事・育児・仕事を私がすることになりました。それは自分が思っていたよりも遥かに大変なものでした。今までの妻のがんばりに感心するとともに、自分の考え方を換えようと決意しました。

ある日の工作中、以前自主保全で清掃をお願いした場所にまた切粉が溜まり、同じ故障が発生しました。以前の自分なら「清掃お願いします」の一言だけで終わらせていましたが、妻のことを思い出し「今度は自分に清掃させてください。」とオペレーターの方に頼みました。

やってみると、やはり10分間の自主保全タイムでは全然やりきれない程大変な作業でした。オペレーターの方にしてみれば、限られた時間での保全は私が経験した仕事と家事・育児の両方をやることと同じように大変な苦労があると感じました。

翌日、カバーの追加とやりにくい所への切粉溜まり防止を実施し、様子を見ることにしました。

数週間後、先輩から「あのライン故障減ったよな。なんでだろう。」と言われ、現地へ行ってみることにしました。そこでは自主保全がしっかり行われており、それによって故障が減っているのが一目瞭然でした。さらに自主保全項目も増えていました。そしてオペレーターの方からは「切粉清掃がやりやすくなったよ。ありがとう。」と一言言われました。私は心からうれしくなり、自主

保全というものを初めて体感できた気がしました。

それからの私は、自主保全は製造部署だけでなく保全部署も一体となり活動しなければならないとの信念を持って保全業務を行っています。職場では「TPM10」と名付け自主保全が10分間で出来るよう、点検窓をつけたり、摩耗量が一目で分かるように改善を行っています。それによって故障が減り、さらに進んだ自主保全・専門保全ができるといった好循環が生まれはじめています。

世間では男性の家事・育児への参加が求められ、当たり前になってきています。まだまだ「イクメン」と呼ばれるまでには程遠いですが、家庭では妻からも「いつも家事・育児を手伝ってくれてありがとう。」と言われるようになりました。職場においてもオペレーターまかせではなく、自主保全ですべての故障が防止できるとの信念を持った保全マンを育てる「イクメン」を目指し、保全業務に邁進していきます。